

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患部の臨床写真，ダーモスコープ写真，病理組織写真，そしてそれらの症例に紐付けされた臨床情報を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

皮膚疾患画像データベースの構築と AI 活用診療支援システムの開発

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院皮膚科

【研究責任者】 村上正基（皮膚科 准教授）

【研究代表者】 山崎研志（東北大学病院皮膚科 准教授）

【研究の目的】

レントゲン写真や CT 画像を人工知能（AI）により自動診断するシステムの開発が進んでおり、近い将来 AI による自動読影が可能となると考えられています。一方、皮膚科領域はテレダーマトロジーとも呼ばれる遠隔診断システムが民間業者によりすでに実用化していますが、これは AI ではなく皮膚科医が写真や臨床情報を基に遠隔診断しているため、多くの症例を短時間に処理することはできません。AI の開発には多量かつ良質の皮膚病の写真が必要であることから、今回東北大学を中心として、皮膚炎症性疾患を中心とした皮膚画像収集から AI 開発研究が開始されました。皮膚画像収集が完成したらその次の段階として、その皮膚画像を使用して皮膚病の写真を使った診断補助システムの開発を行う予定です。この研究は各種皮膚疾患における有効な診断補助方法の検討を目的としたものであり、今後の診療にも役立つことができると考えています。

【研究の方法】

（対象となる患者さん） 2000 年 1 月から 2019 年 7 月に愛媛大学医学部附属病院皮膚科を受診された患者さん。

(利用するカルテ情報) 病変部臨床写真とその診断名, 年齢, 性別, 診断根拠となった臨床情報, 治療内容, そして転帰などの情報。

(利用する試料・情報) 臨床写真, ダーモスコープ写真, 病理組織写真, そしてそれらの症例に紐付けされた臨床情報。

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータ/試料は、匿名化されて、CD-R に保存した電子ファイルを郵送することによって東北大学病院に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者> 東北大学病院皮膚科 山崎研志、志藤光介

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院皮膚科 村上正基

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5350